

会議録

会議の名称	男女平等参画推進委員会 令和7年度 第1回
開催日時	令和7年5月27日（火曜日） 午後6時15分から8時00分まで
開催場所	田無庁舎4階 会議室2
出席者	出席：笹川委員長、平副委員長、中村委員、山辺委員、安田委員、篠宮委員、鈴木委員、高岡委員、橋本委員、星委員、和田委員 欠席：岩本委員、井上委員、加藤委員 事務局：河野課長、徳丸係長、野口主査、玉根主事
議題	(1) 令和6年度第5回男女平等参画推進委員会会議録の承認について (2) 講義 男女共同参画社会の実現に向けて—ジェンダーとは何か— (3) その他
会議資料の名称	・令和6年度第5回男女平等参画推進委員会会議録（案） ・【資料1】男女共同参画社会の実現に向けて
記録方法	☐ 全文記録 ☒ 発言者の発言内容ごとの要点記録 ☐ 会議内容の要点記録
会議内容	
【開会】 ○事務局： 議題に入る前に、4月に人事異動があったため、御挨拶させていただく。 （事務局挨拶） ○事務局：これより本年度第1回男女平等参画推進委員会を開催する。 事務局より委員の半数以上が出席しており委員会が成立している旨の報告をした。 続いて事務局より配布資料を確認した。 1 議題 （1）令和6年度第5回男女平等参画推進委員会会議録の承認について ○副委員長：お手元にある会議録を少しお読みいただいて、御意見を伺いたい。 （黙読） ○副委員長：時間になったので、御意見のある方は発言をお願いしたい。 ○委員：2ページ目の8行目の切れているおりを切れておりに修正願いたい。 ○委員長：2ページ目の（3）のAグループの「数値を記載してもらおうようにしてあれば。より良い評価になるのでは」の。を、に修正願いたい。 2 講義 男女共同参画社会の実現に向けて—ジェンダーとは何か—	

○副委員長：事務局から説明を求める。

○事務局：市の職員も含め、昨年度から新たに委員となられた方もいるため、男女平等参画社会の現状について、委員長から講義いただき、今後の委員会運営に活かしていければと考え、企画させていただいた。では、委員長お願いします。

（講義）

○委員長：その他、質問等は何かあるか。

○副委員長：女性参画は私もとても大事だと思う。女性の立場を上げることだけに目が行っていて、元々固定観念を持っている人への啓発が足りないと感じている。

○委員：有名大学にあえて入らず、それ以外の大学に行って有名大学の学生と結婚する人が多い、これは家庭の問題だと考える。女の子は勉強をそんなにしなくてもいいという親御さんがまだ多い。この人たちへの理解を深めなければならない。

○委員：管理職になりたくない女性が多い。その根底には、家事育児で負担がかかるからというものがある。ここ何十年か価値観の根底がなかなか変わらないため、そこを変えるのが難しいと感じる。

○委員長：アイスランドでは女性がストライキをおこしたこともある。日本のジェンダーギャップ指数は低く、他の国に追い越されている。他の国は女性の政治参画の割合が高い。日本にも候補者男女均等法などはあるが、あまり機能していない。そこに強制力を持たせないと難しい。

○委員：娘が入社した会社では管理職の女性が独身や子供がいない人しかいない。そのため将来設計を立てるのが難しいという意見があった。その人たちが自身の判断で子どもを持たないのかもしれないが、政治家になるのも、家族全員を巻き込むということで女性が政治家に立候補しにくいと思う。

○委員長：大学で子育てキャリアの両立支援を目的とした補助金があり、子供がいる人だけという条件のある大学もある。昔の議員では子供のいない女性議員は子供もいないくせしてなど攻撃の対象になることもあった。キャリアと子育ての両立は難しいが、一人前の女性はどちらでも求められてしまう。

○委員：持っている固定観念を変えるのは難しい。この前、知り合いが地方の集まりで女性だけ集められてお茶出しなどをさせられたと言っていた。このようなことをおかしいと思うような気づきの瞬間が大事だと思った。

○委員長：学校でも都道府県によって差があり、共学だけのところもあれば、男子校や女子校がまだあるところがある。皆さんは共学の方がいいと思うか。

○委員：選べるなら男子校、女子校どちらもあってもいいと思う。共学だと異性がしてくれることを自分たちでやることがある。

○委員長：官僚などを輩出する偏差値の高い男子校では、その学校に通っている学生からすると女性のイメージとして、専業主婦である自分の母親しか知らないということが起きてしまいがちで、そうすると固定概念のまま国を動かす官僚となったときに偏見が残ってしまう可能性があるとの指摘があった。

○委員：勉強になりました。ありがとうございました。東京大学の話が出たので、私視点の少し補足で、ある大学では、性的指向や性自認に対する、学生がどのようなセクシャリティでも安心して学生生活を送るためのガイドラインがある。その大学だけではなく大学は性の多様性については進んで

いる。小中高ではなかなかまだ進んでいない。また、最近男性学も再考されている。それぞれ、性別の役割を見直すべき時が来ていると思う。

3 その他

○副委員長：星委員から配布いただいたものがあるので御説明いただきたい。

○委員：自分が勤務している職場が発行したL G B T Qの就職相談に関するパンフレットをお持ちした。身近な方で御興味ある方に周知いただきたい。

○副委員長：それでは、これにて閉会とする。